森林レンジャーがゆく　（125）

ニワウルシ

「ニワウルシ」は市内では平井川の周辺で多く見られる木です。名にウルシと付いていますが、ニガキ科の植物でかぶれることはありません。葉が羽状複葉でウルシに似ていますが、庭に植えてもかぶれることがないとの理由で和名が付けられたようです。別名、シンジュ（神樹）と呼ばれ、明治期に養蚕産業の一環として野蚕のシンジュサンやエリサンという蛾の繭から絹糸（ワイルドシルク）を生産するために導入されました。

この木は中国原産の外来種で、「神樹」という和名も中国語由来と思われがちですが、実は英名の「Tree of heaven（天国の木）」の日本語訳として和名が付けられました。インドシルクやタイシルクに使われていたため、ヨーロッパでもよく知られた樹木で、すくすく大きく育つことから、すぐに天国に届くとのイメージで付けられた英名だと言われています。日本でも明治期から導入され、野蚕も太平洋戦争中は特に奨励されたため、シンジュが広く植えられたと記録にあるようです。あきる野でも同時期に平井川周辺に植えられたと思われます。

この野蚕のシルクは丈夫で、パラシュートの紐や戦闘機のパイロットのスカーフに使われたとの話もあり、戦争が残した産物とも考えられます。全くの偶然ですが、神樹と名の付いた木から生産されたシルクのスカーフを首に巻いて、戦地に飛び立つゼロ戦のパイロットがいたことを思うと、考えさせられるものがあります。

現在は繁殖力の強いこの木が世代交代をしながら生きながらえています。元々、養蚕に利用される樹種で、切っても切っても枝葉を再生する能力が高く、張り巡らした根からも根萌芽する繁殖力を持ちます。また、モミジのように翼を持った種子を大量に飛散させる能力があるため、簡単には駆除ができないことから「侵略的外来種」として注視されています。

この木が分布を拡大するもう一つの要因として、「アレロパシー（他感作用）」と呼ばれる能力があります。この能力で他の植物の成長を阻害し、自分が優先して成長することができるため、生態系を攪乱する可能性があります。この木は日本だけでなく、一部では南極以外の全ての大陸に外来種として定着していると言われるほど繁殖力が強い強靭な樹木です。（杉野）

落葉したシンジュ